



鉢植え(スリット鉢)

露地植えとは異なり、根の張るスペースが限られた鉢植えでは、土のよしあしとともに、根をいかに張らせるかが大切です！せっかく育てるのですから、苗木にとって最高の環境で育ててあげましょう！

鉢栽培では「根づくり」が重要！



根は一見全て同じようですが、生育する角度に合わせて役割が違います。

一般には量販店などで販売されているポット苗は鉢の底で根がぐるぐるまわっているため、根を切り落として植えつけます。ですがそれだと再び新たな鉢の中でぐるぐるとサークリングしてしまいます。

山陽農園で植え込みに使っている「スリット鉢」だと、株の根はサークリングしにくくなり、次に植替えるときにおしゃれなテラコッタ鉢などどんな鉢に植えてもおいしい果実になります。

2～3年ほど7号～10号のスリット鉢で育てれば根が完全にしつけられるんです！

理想的な根をつくる「スリット鉢」

- ① スリット穴作用により、根の旋回(ルーピング)を大幅に軽減し、中心部に多く根を作る
- ② 2種類のスリットが余分な水分を除去し、用土内の水分を均一化する
- ③ 8か所のコーナーと側面の2段の段差により、根を下方に誘導する(15φは6か所)
- ④ 弾力性のある硬質ポリ素材で、樹皮等がポットにあたっても傷つきにくい



お洒落なコンテナガーデンも

コンテナガーデンでは、鉢もデザインの一部になります。
通気性があり、色やデザインがおしゃれなので、おすすめです。

培養土

果樹に限らず、土はすべての植物において重要です。

根の健康な生育が、果樹の出来を左右します。根が丈夫に育てば樹も丈夫に育ち、多少の病害虫にも負けず、おいしい実になります。おいしい果実を実らせるため、果樹は良質な土壤で育ててやることが重要です。

桃太郎培養土は、果樹育成に必要な条件を考え抜いて調合した当園オリジナルの土です。

鉢への植えつけに、庭・畑の土壤改良に、幅広くご利用いただけます。トマトなどの果菜類栽培にもおすすめです。

桃太郎培養土の特徴・成分

1. 有機物が豊富

パーク堆肥、発酵落葉などが養分を蓄え微生物の活動を活発にします

2. 保水性・保肥性が良い

土が水分・養分をよく保持することで、根に適時供給します

3. 水はけ、通気性が良い

団粒構造の土が余分な水分を逃がし、根の呼吸を助けます

4. 細根の張りがよくなる

やわらかく、適度な酸性度で、健康な木に欠かせない細根の張りを促します

5. 二次発酵しない完熟堆肥

完熟堆肥を用いているので、水やりによる発酵熱等で根を傷める心配がありません



- ①光
- ②水
- ③空気
- ④温度
- ⑤養分
- ⑥有害物質がないこと

果樹育成に必要な 6大条件

左記6つが好適な状態にある時、果樹は健康に育ちます。
①光と③空気以外は「土壤」を通して果樹に影響を与えます。
そのため、果樹の育成環境は土壤次第といえるのです。

苗が到着したら植え替えましょう！

まずは届いた苗の根を整理

• ポット苗の場合



1. ポットからぬいた状態



2. 側面に根が回っていたら、ノコギリで切り目をいれます



3. 根がグルグルと回っていたら、底面を1/3程度きます



4. 古い根は取り除きます



5. 完成

•鉢苗の場合



1. 根鉢の上部を厚さ1cmほど削ります



2. 根鉢の下部3分の1を切り取ります



3. 根鉢の側面に縦に5cm間隔で、深さ1cmほどの切れ込みをいれます



4. 根鉢の表面に出てきた根を切ってきれいに整えます

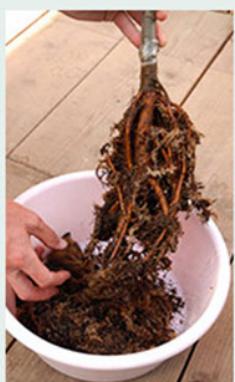


5. 完成

• 素掘り苗の場合



1. 届いた時は乾燥を防ぐための水コケがまいてあります



2. 水コケを取り除きます



3. 細い根は取り除きます



4. 完成

根の整理ができたら植つけです！



1. 主枝が垂直になるように苗をおき、土をいれます



2. 手で土を根になじませます



3. 約20cm程度のところで切戻します（もったいないからと切らないのは厳禁です！今後の栽培に大きく左右します）



4. 雨などに含まれる菌から守るために木工用ボンドをぬります



5. 水をたっぷりやって完成

必要な土の量（目安）※素掘り苗の場合

鉢へ植え替える場合

桃太郎培養土を植え込み用の土としてそのまま使用してください。必要量の目安は、8号（直径24cm）で1袋分（10L）、10号（直径30cm）で2袋分（20L）です。

露地に植えつける場合

掘り上げた土に、等量の桃太郎培養土を加えてよく混ぜ合わせて使用してください。